



ロジ人材育成講座が始動

鳥取県 荷主 運送会社むけ

鳥取県は2日、ロジ人材育成講座を倉吉市で開いた。2025年問題への解決に向けて、県連携で取り組んでいる「ロジ」事業の一環で、運送会社や荷主企業に物流の効率化などを示す。2025年9月まで全5回シリーズを予定。座学のほか演習やケーススタディも盛り込む。

2回目の開催についても、参加者を募っている。日本能率協会（JIP）インク（小野天佳、東京都港区）の広瀬伸也氏が、SCM（サプライチェーン・マネジメント）の現状と将来展望をテーマに、KPI（重要業績評価指標）の捉え方を解説。また、これからの物流について、荷主と物流事業者のそれぞれの視点で必要な対

応策を助言した。この日の参加者は、運送会社の経営者やスーパー、卸会社ほかの物流担当者計5人で、座学だけでなく、演習やケーススタディを交えながらカリキュラムを展開。例題に対して、課題やその原因、対応策を話し合いながらホワイトボードに書き出したり、効率的な保管を考えたレイアウト図を作成したりするなど、実践的な内容が含まれた。

また、それぞれの立場で物流現場の実情や思いについて意見交換。荷主側の担当者から「運賃値上げの要請を受けるが、妥当性が根拠が見えないケースがあ

る」といった声が上がった。更に、値上げの風潮もあるから逆に値下げ提案をする運送会社もあったが、継続的に運べるのだから「以前よりトータルコストの削減が期待できる」といった声も聞かれた。

これに対し、運送会社の経営者は「ごりあえ値上げも多し、運送会社側は付帯作業をなくす提案なども必要」と指摘。荷主のやり取りも紹介し、「パレット化の提案がスムーズに受け入れられた事例がある一方で、商流が複雑で付帯作業の改善を要望しても最終判断先まで届かない」とも

述べた。次回（10月15日）、「物流のIT（情報技術化）」がテーマで、10月20日まで参加費を受け付けている。12月6日に特別講演として、国土交通省最優秀賞を受賞する前に、荷主企業と運送事業者が協力に向かうための学びを深める場として活用してほしい」と話している。（宮本静子）

ら」といった声が上がった。更に、値上げの風潮もあるから逆に値下げ提案をする運送会社もあったが、継続的に運べるのだから「以前よりトータルコストの削減が期待できる」といった声も聞かれた。

これに対し、運送会社の経営者は「ごりあえ値上げも多し、運送会社側は付帯作業をなくす提案なども必要」と指摘。荷主のやり取りも紹介し、「パレット化の提案がスムーズに受け入れられた事例がある一方で、商流が複雑で付帯作業の改善を要望しても最終判断先まで届かない」とも

述べた。次回（10月15日）、「物流のIT（情報技術化）」がテーマで、10月20日まで参加費を受け付けている。12月6日に特別講演として、国土交通省最優秀賞を受賞する前に、荷主企業と運送事業者が協力に向かうための学びを深める場として活用してほしい」と話している。（宮本静子）

次回（10月15日）、「物流のIT（情報技術化）」がテーマで、10月20日まで参加費を受け付けている。12月6日に特別講演として、国土交通省最優秀賞を受賞する前に、荷主企業と運送事業者が協力に向かうための学びを深める場として活用してほしい」と話している。（宮本静子）

次回（10月15日）、「物流のIT（情報技術化）」がテーマで、10月20日まで参加費を受け付けている。12月6日に特別講演として、国土交通省最優秀賞を受賞する前に、荷主企業と運送事業者が協力に向かうための学びを深める場として活用してほしい」と話している。（宮本静子）